

## JOMF 派遣医師便り (2019.1)

## ◆マニラ◆

## ◎2018年12月24日 トンドで過ごした雨のクリスマスイブ

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

2018年12月24日クリスマスイブの朝、ゴミ最終処分場だったトンド地区に今年も妻と一緒に向かいました。(現在はマニラから出た大量のゴミは主にケソン市のパタヤス地区に運ばれることになっていますがトンド地区にもゴミは山積みになっています)

マカティ市からロハス通り、イントラムロスを超えてパシッグ川を渡り、トンド地区へ向かいました。マカティ市の華やかなクリスマス飾りつけとは様相が異なる街並みが見えてきました。昨年のクリスマスの際は廃材とビニールで作った家々が道の両側に並び、収集されたゴミが山積みになっていて、多くの人々が金属やプラスチック等をそこから探し集めていました。しかし今年は再利用物を探している人の姿はほとんど見当たりません。

昨日から雨が降り続けているせいか道端を歩いている人もまばらです。細い路地の入口では上半身裸の男の子が笑顔で「メリークリスマス」と呼びかけています。雨の中を私たちのところまで走って来て、興味深そうに何か話そうとしています。こどもたちがにこにこしながら3人、4人と集まってきました。学校に行っているの?と尋ねると「時々」、「うん・・・」と互いに顔を見合わせていました。好きな科目は?、社会?理科?算数?と聞くと男の子が「Filipino」と元気よく答えました。

子供の叔父さんも手掴みでレチョンを食べながら話に加わってきました。レチョンの傍の段ボール箱には数百匹以上のハエが群がっていましたがへっちゃらの様です。路地から活発そうな母親も近寄って来ました。八百屋さんをしているそうです。白く細長い大根を指さして「これはいくら?」と聞くと「15ペソよ」と説明してくれました。「お仕事の調子はいかがですか?」と聞くと「まあまあよ」とかなり順調のようです。

妻と二人で路地の中まで入って行きました。両側の各家に引きこまれた何十本もの電線の束が路地に沿って何十メートルにも渡り垂れ下がっています。体に引っかかり感電するのではないかと心配してしまうほどの垂れ下がり具合です。ある家の玄関前ではアルミニウムやカラフルな色のプラスチックの桶で洗濯物を手でごしごし洗っていました。その道端では女性がガスボンベを利用して昼食の準備に取り掛かっていました。

さらに奥に歩いて行くと可愛いオモチャや雑貨を売っている店がありました。中学生の女の子二人が店番をしていました。1m四方の台の上に小さな人形などのオモチャが並べられ、それぞれに10ペソ~50ペソの値札が付けてあります。女の子とオモチャや学校のこ

とを話していると家の中から彼女たちの母親が顔を出し、「家に中にお入りなさい」と手招きして声を掛けてくれました。とても狭い入り口を入ると3畳くらいの部屋の中ではその母親が食事の準備中でした。鍋の中にはおいしそうな緑のインゲン豆や黄色いかぼちゃのピナクベツト（バゴーン（あみの塩辛）を加えた野菜炒め）が湯気を立てて踊っています。「どうぞお座りなさい、明日はお父さんの誕生日なのよ。一緒に食べていきなさい」と勧めてくれました。奥の部屋からお父さんも出てきたので「Happy Birthday」と言うと満面の笑みを浮かべていました。お父さんとお母さんは下水道関係の仕事に従事しているとのこと。家族みんなで協力して生きている、温かいご家族のぬくもりを感じながら家を後にしました。

路地を歩いていると、今度はおとぎの国から魔法で飛び出だしてきたような、とても人のよさそうなおじさんがニコニコしながら近寄ってきました。「案内するよ、僕に任せて」とタガログ語で話しかけ胸をたたく感じです。更に歩いて行くと「ここは危ないよ、ゆっくり歩いて」、「ここは安全だよ」、「雨に濡れるからレインコートの帽子をかぶって」とジェスチャー交じりで教えてくれます。「水たまりがあるからこっちを歩いて」と手取り足取り気使ってくれます。

「僕の友達がいるから紹介したいんだ」と言って、説明しながら路地の奥へどんどん歩いて行きました。ゴミがぷかぷか浮かぶよどんだ水溜りを指して「下水の水だからね、このように汚い水だから気を付けて」とピョンピョン飛びはねながら進んで行きました。下水に沿って道を上がっていくと密集した居住地に出ました。そこにはおじさんの友達とその家族がいました。「10年来の友人なんだ」と。「お互いに信頼しているんですね」と言う。「もちろん」と言いながら互いの手でじゃれ合っています。おじさんたちはとてもうれしそうです。歩いて行くとおじさんの知人が更にたくさんいて、皆が「メリークリスマス、メリークリスマス」と呼びかけてきます。とても多くの人々に声を掛けられたり掛けたりしました。

ある家に近づくと猿飛佐助のように突然ひょいっと男の子が現れました。小学1年生くらいです。一生懸命に体で何かを表現しようとしています。「ここには犬がいるよ、その犬は危ないよ、気を付けて」と何度も注意してくれています。犬はスースー寝ていて狂犬病には罹っていない様子ですが、以前に住民を咬んでケガをさせたのかもしれませんが。「ありがとう、ありがとう」と少年にお礼を言いました。

帰り際に、なんと日本でもフィリピンでも流行しているピコ太郎の歌「I have a pen・・・」が路地に備えてあるスピーカーから元気に流れてきました。続いてイエン・コンスタンテーノの美しいメロディー“ikaw（あなた）”も流れだし、路地一面が優しい雰囲気になりました。妻も大好きな曲で周囲の人たちと一緒に口ずさんでいました。みんなが集まって手を振り「メリークリスマス、メリークリスマス」と見送ってくれました。以前より安全で力強く生きている、健康的な人々の姿を垣間見ることができました。少し肌寒さを感じる雨のクリスマスイブでしたが、人々のほのぼのと温かい心とともに帰途につきました。（2018年12月24日記）

（追記：この地区に限らず、犯罪や事故に巻き込まれないよう十分な注意が必要です。適切な準備・対策をとった上での行動が大切です。）